

社会福学科 介護福祉専攻 2年 後期 専門科目

1. 人権論
2. 地域福祉論
3. 社会学
4. 児童・家庭福祉論
5. 介護の基本Ⅳ
6. 生活支援技術Ⅳ
7. 介護総合演習Ⅳ
8. 介護実習Ⅱ-②

社会福祉学科			介護福祉 専攻						
科目名: 人権論			担当教員 氏名: 濱野 信宏						
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
2	2年次	後期	専門科目	講義	選択	介護福祉士国家試験受験資格(選択)			
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:									
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード			
この世界には多様な人権侵害がある。1. 気づく。2. 当事者や被害者の立場で状況をとらえる。3. 自分との関係において問題をとらえる。4. 問題解決のために必要な情報(法律・社会保障制度など)を収集して解決の方策を探る。						憲法、国民主権、基本的人権、平和主義、差別、偏見、当事者主権、支援、ジェンダー、グローバリズム			
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 5. 8.				
A 知識・理解力			人権侵害の状況を把握し、法律や科学的知見などの情報を収集し、問題を整理する。						
C 論理的思考力			収集した情報を、分析、活用する。						
E 自己管理能力			問題解決のためにできることを考え、行動する。						
G 倫理観			社会規範ののっとり、考え、行動する。						
H コミュニケーション力			言葉などによって相互に理解を深める。						
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	60 %	発表:	%	実技試験:	%	その他:	40 %
特記事項: 上記その他においては、ワークシートや授業中の態度、発言によって評価する。									
アクティブラーニング要素: 新聞を利用して、時事問題などについてディスカッションする。 課題解決型学習 (ディスカッション) ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク									
テストレポート・発表実技試験等の実施時期: 中間と期末にレポートを提出する。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: ワークシートの内容や中間考査の結果を次回授業で返却し、評価、共有する。									
授 業 計 画						準備学習(予習・復習等)			
						学習内容	学習に必要な時間(分)		
①人権とは——自尊感情を育む						憲法、人権思想	120分		
②いじめといじめ死——いじめとは何か、命の尊厳を考える						いじめの諸相、自死	120分		
③家族と人権——家父長制、性別役割分業、男女格差とは						家族における性差別問題	120分		
④セクシュアリティ——性の多様性とLGBTなどについて理解する						性の態様と性的権利	120分		
⑤労働と人権——ケアワークにおける労働問題とは何か、自分の問題としてとらえる						介護労働の環境と権利	120分		
⑥国際化と外国人労働者——外国人ケアワーカーとともに働くために						労働現場、日本人同僚として	120分		
⑦貧困問題と生存権——社会保障制度は生かされているか						野宿者の現場から	120分		
⑧見た目問題——人を見た目で判断していいか						人として大切なことは何か	120分		
⑨中間まとめ——人権とは何かを考える						ディスカッション	120分		
⑩公害と人権——公害被害者による解決運動の厳しさを知る						イタイイタイ病と被害	120分		
⑪平和主義——勝利者にとっても戦争被害は深刻である						戦争の真実を知る	120分		
⑫医療と人権——ハンセン病回復者の権利は守られているか						ハンセン病問題の解決とは	120分		
⑬障害者と自立——障害者自立生活運動など障害者の人権について考える						障害者差別、反差別運動	120分		
⑭部落問題——偏見差別に敏感な私を育む						部落差別の歴史と運動	120分		
⑮支え合う社会——当事者主権(当事者の意思を第一に尊重することの大切さ)を考える							120分		
使用テキスト: 視聴覚教材、新聞、関連資料等を利用する。				その他参考文献など: 授業中に紹介する					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 憲法は、すべての人に幸福を追求する権利を保障している。差別の諸相を知り、差別や偏見とたたかった人たちに学び、勇気をもって自分を大切に生きることを学ぶ機会としたい。									

社会福祉学科

介護福祉 専攻

2年

科目名：地域福祉論				担当教員氏名：宮嶋 潔	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次 後期	専門必修科目	講義	必修	介護福祉士(選択必修) 社会福祉主事任用資格
実務経験を用いてどのような授業を行っているか：			社会福祉士としての実務経験をもとに地域福祉の実際を事例を交えながら授業する。		
授業科目の学習教育目標の概要：				キーワード	
地域で暮らすということはどういうことなのか、すみよい地域づくりとは何かについて考え、地域福祉を推進するうえでの基本的な考え方を学び、行政・地域住民・福祉専門職等の役割と実際について理解する。				地域福祉、住民参加、社会福祉法、社会福祉協議会、協働	
授業における学修の到達目標					
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 6.	
A 知識・理解力		地域福祉を推進するうえでの基本的な考え方を学び、行政・地域住民・福祉専門職等の役割と実際について理解することができる。			
C 論理的思考力		地域福祉に関する知識を複眼的、論理的に分析し、表現できる。			
G 倫理観		尊厳を支えるケア、人権擁護の視点に立った倫理を身につける。			
成績評価の基準と方法：以下の方法により評価し、学期および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト：50%		レポート：%		発表：20%	
				実技試験：%	
				その他：30%	
特記事項： 「その他：30%」では、授業態度について評価する。 本科目では、アクティブ・ラーニングの一環として、グループワークを活用し、学生相互の理解を深める。					
アクティブラーニング要素： 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> プレゼンテーション 実習、フィールドワーク					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：別に定めた日時に実施する。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法：実施するテストに評価を付けて学生に返却する。					
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)		
			学習内容		学習に必要な時間(分)
①オリエンテーション～地域福祉とは～			【予習】テキスト第1章を読む 【復習】①の復習		【予習】30分 【復習】30分
②地域福祉の基本的考え方①～概念と範囲～			【予習】テキスト第2章第1節を読む 【復習】②の復習		【予習】30分 【復習】30分
③地域福祉の基本的考え方②～理念～			【予習】テキスト第2章第2節を読む 【復習】③の復習		【予習】30分 【復習】30分
④地域福祉の発展過程			【予習】テキスト第2章第3・4節を読む 【復習】④の復習		【予習】30分 【復習】30分
⑤地域福祉における住民参加の意義			【予習】テキスト第6章を読む 【復習】⑤の復習		【予習】30分 【復習】30分
⑥地域福祉におけるアウトリーチの意義			【予習】テキスト第9章を読む 【復習】⑥の復習		【予習】30分 【復習】30分
⑦すみよい地域づくりとは・中間まとめ			【予習】①～⑥の復習		【予習】30分 【復習】30分
⑧地域福祉の主体と対象①～地域福祉の主体～			【予習】テキスト第3章を読む 【復習】⑧の復習		【予習】30分 【復習】30分
⑨地域福祉の主体と対象②～地域福祉の対象～			【予習】テキスト第4章第1節を読む 【復習】⑨の復習		【予習】30分 【復習】30分
⑩地域福祉の主体と対象③～社会福祉法～			【予習】社会福祉法の概要を理解してくる 【復習】⑩の復習		【予習】30分 【復習】30分
⑪地域福祉に係る行政組織と民間組織の役割と実際①～行政の役割～			【予習】自分の市町村の地域福祉計画を読む 【復習】⑪の復習		【予習】30分 【復習】30分
⑫地域福祉に係る行政組織と民間組織の役割と実際②～社会福祉協議会の役割～			【予習】テキスト第4章第2節を読む 【復習】⑫の復習		【予習】30分 【復習】30分
⑬地域福祉に係る専門職や地域住民の役割と実際①～住民の役割～			【予習】テキスト第4章第3～6節を読む 【復習】⑬の復習		【予習】30分 【復習】30分
⑭地域福祉に係る専門職や地域住民の役割と実際②～福祉専門職の役割～			【予習】テキスト第5章を読む 【復習】⑭の復習		【予習】30分 【復習】30分
⑮地域福祉と介護福祉士・まとめ			【予習】⑧～⑭の復習		【予習】30分 【復習】30分
使用テキスト：ピギナーズ地域福祉 有斐閣アルマ ISBN978-4-641-12486-8			その他参考文献など： 社会福祉基礎シリーズ 9「コミュニティとソーシャルワーク 新版」平野・宮城・山口 編 有斐閣		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： テーマは重複する点もあるので、配布した資料等は毎回持参すること。また、自分の地域における様々な取り組みに興味と関心を持ってほしい。					各

社会福祉学科			介護福祉 専攻			
科目名: 社会学			担当教員 氏名: 中川 翔平			
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次	後期	専門科目	講義	必修	介護福祉士国家試験受験資格(選択必修) 社会福祉主事任用資格 社会福祉士受験科目
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:						
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
私たちが取り巻く「社会」は、どのように成立しているのか? <社会的なもの>と<個人的なもの>とはどのような関係にあるのか? 私たちの日常生活とマクロな社会の構造や変容とはどのような関連をもつのか? 本講義では、社会学の基礎的な概念や理論を用いて、メディアで取り上げられるニュースを事例を取り入れながら「社会」を理解する視座を涵養していく。						社会学、現代社会、行為と共同性、時間・空間・近代、構造化と秩序
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 5. 7. 8. 10	
A 知識・理解力			私たちが生きている社会がどのように成立しているか、その概要を理解する。			
C 論理的思考力			私たちが直面している様々な社会問題について、考え、整理をし、自分なりに問題解決に向け挑戦する土台作りを行う。			
G 倫理観			社会にある多様な価値観に理解を深め、自分自身のスタンスを明確にして、また、他を尊重するための基礎的な土台を身に付けてる。			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 90 %	レポート: %	発表: %	実技試験: %	その他: 10 %		
特記事項:						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 <u>ディスカッション</u> 、 <u>ディベート</u> <u>グループワーク</u> <u>プレゼンテーション</u> 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 適宜小テストを行う。最終試験に関しては別に定めた日時に実施する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 採点し、評価する。必要に応じて課題を与える。						
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)		
				学習内容	学習に必要な時間(分)	
①社会学の基礎1-相互作用からみる「社会」-				【復習】配布資料から不明点を抜き出すこと	【復習】120分	
②社会学の基礎2-共有される/する「社会」-				<前回講義の質疑応答>	【予習】基礎を養うために資料で用語を調べること。 【復習】配布資料から不明点を抜き出すこと	【予習】120分 【復習】120分
③社会学の基礎3-行為からみる「社会」-				<前回講義の質疑応答>	【予習】基礎を養うために資料で用語を調べること。 【復習】配布資料から不明点を抜き出すこと	【予習】120分 【復習】120分
④日常世界における「社会」の存在<前回講義の質疑応答、①、②、③の理解度確認少テスト>				【予習】参考資料『社会学』第1章を読む。 【復習】配布資料から不明点を抜き出すこと	【予習】120分 【復習】120分	
⑤役割と自己				<前回講義の質疑応答>	【予習】同第2章を読む 【復習】配布資料から不明点を抜き出すこと	【予習】120分 【復習】120分
⑥ドラマツルギーと役割演技・役割距離				<前回講義の質疑応答>	【予習】同第1・2章の復習 【復習】配布資料から不明点を抜き出すこと	【予習】120分 【復習】120分
⑦シンボリック相互行為論の世界				<前回講義の質疑応答>	【予習】同第5, 9, 12章を読む 【復習】配布資料から不明点を抜き出すこと	【予習】120分 【復習】120分
⑧社会学再考1-「社会」は存在するのか?-				<⑤、⑥、⑦の理解度確認テスト>	【予習】これまでの不明点を各自まとめる 【復習】配布資料から不明点を抜き出すこと	【予習】120分 【復習】120分
⑨社会学再考2-社会の問題を捉える-				<テーマに関してグループワーク>	【予習】担当講師がテーマを出題、ディベートを行う資料の収集 【復習】配布資料から不明点を抜き出すこと	【予習】120分 【復習】120分
⑩メディアとコミュニケーション				<前回講義までの質疑応答>	【予習】参考資料『社会学』第5章を読む 【復習】配布資料から不明点を抜き出すこと	【予習】120分 【復習】120分
⑪感情社会学から見る「労働」				<前回講義の質疑応答>	【予習】参考資料9章を復習 【復習】配布資料から不明点を抜き出すこと	【予習】120分 【復習】120分
⑫社会的排除と包摂				<⑨~⑪の理解度確認テスト>	【予習】参考資料5, 7, 15章を読む。 【復習】配布資料から不明点を抜き出すこと。テキスト第2部をまとめること。	【予習】120分 【復習】120分
⑬福祉国家と社会福祉				<前回講義の質疑応答>	【予習】参考資料第9, 10, 11章を読む 【復習】配布資料から不明点を抜き出すこと	【予習】120分 【復習】120分
⑭死の社会学				<前回講義の質疑応答>	【予習】参考資料『社会学』第9章を読む。 【復習】配布資料から不明点を抜き出すこと	【予習】120分 【復習】120分
⑮まとめ				【予習】テキスト・配布資料を復習	【予習】120分 【復習】120分	
使用テキスト:				その他参考文献など: 長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志著『社会学』有斐閣、2007。		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 本講義は社会を観察する様々な視点を勉強します。そのため、専門用語や抽象的な説明も多いです。事前準備や復習、講師への質問等を意識しましょう。また、参考資料は図書館にあります。各自協力して資料を咀嚼してみましょう。						

社会福祉学科			介護福祉 専攻			
科目名: 児童・家庭福祉論			担当教員 氏名: 清水 雄一			
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
2	2年次 後期	専門科目	講義	選択	介護福祉士国家試験受験資格(選択)	
実務経験を用いてどのテキストだけで理解が不十分な部分の説明として、対人的なものなど具体的実践の中での事例を取り上げるような授業を行っていることにより、理解が促進される。						
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
①児童が権利の主体であることを踏まえ、児童・家庭及び妊産婦の生活とそれを取り巻く社会環境について理解する。 ②児童福祉の歴史と児童観の変遷や制度の発展過程について理解する。 ③児童や家庭福祉に係る法制度について理解する。 ④児童や家庭福祉領域における支援の仕組みと方法、社会福祉士の役割について理解する。 ⑤児童・家庭及び妊産婦の生活課題を踏まえて、適切な支援のあり方を理解する。					児童福祉 権利 相談	
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (短短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 7	
A 知識・理解力			児童福祉分野における総合的な知識力を高めることができる。			
B 専門的技術			相談援助に必要な情報や技術を身につけることができる。			
C 論理的思考力			児童相談援助のプロセスを理解することで思考力を身につけることができる。			
D 問題解決力			事例を検討することで問題解決能力を高めることができる。			
G 倫理観			児童の権利擁護について考えることで自己の人格的成長を図ることができる。			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学期および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 10 %	レポート: 40 %	発表: %	実技試験: %	その他: 50 %		
特記事項: 学んでいく「やる気」さえあればOKです。外国からの留学生の方も、毎回の説明が聞き取れずに理解できなくても、諦めて止めてしまわずに、読み書きを繰り返し、最後に記憶するというのをマスターすれば、大きな収穫が得られます。 経験談と語句などの解説をする。読む力は必要不可欠で、テキスト読み合わせを毎回実施していく。(その他として) 人それぞれ正解・不正解と二者択一で決められないことも現実場面では多いが、毎回、授業の終わりにミニレポートを提出していただき、自分で考え、書くという習慣を身につける。(レポート) 世の中の客観的で公平な選別基準が筆記試験であり、最後に、記憶する訓練にチャレンジする。(テスト) 学生の皆さんは、勉強に多忙なことと思いますが、基本的には授業時間により学習を完了したいと思っておりますが、各回のテキスト読み合わせ範囲で、読み切れなかった部分を復習として読んでおいてほしい。(全体的に) アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 <u>ディスカッション、ディベート</u> グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 毎回の終わりに、疑問点や勉強になったこと、面白いと感じたことなど所感をミニレポートにまとめて提出とする。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 毎回のミニレポートの点検として、次回授業の初めに全体に対してコメントや説明を実施する。						
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)			
			学習内容	学習に必要な時間(分)		
①オリエンテーション、子ども・家庭福祉の基本的な視点、考え方			【予習・復習】授業範囲のテキストを読む		30分	
②子ども家庭福祉とは何か 子どもと家庭の権利保障			【予習・復習】授業範囲のテキストを読む		30分	
③子ども家庭福祉とは何か 子ども家庭福祉の発展			【予習・復習】授業範囲のテキストを読む		30分	
④現代社会と子ども・家庭 子育て、子どもの成長、発達、子育て環境			【予習・復習】授業範囲のテキストを読む		30分	
⑤現代社会と子ども・家庭 子どもの育ち、子育てのニーズ			【予習・復習】授業範囲のテキストを読む		30分	
⑥子ども家庭福祉にかかわる法制度 子ども・子育て支援制度、法体系			【予習・復習】授業範囲のテキストを読む		30分	
⑦子ども家庭福祉にかかわる法制度 子ども家庭福祉の実施体制・財政			【予習・復習】授業範囲のテキストを読む		30分	
⑧子ども家庭福祉にかかわる法制度 子ども家庭福祉の専門職、権利擁護			【予習・復習】授業範囲のテキストを読む		30分	
⑨子ども家庭福祉にかかわる福祉・保健 子どもの貧困の防止、母子保健			【予習・復習】授業範囲のテキストを読む		30分	
⑩子ども家庭にかかわる福祉・保健 障害・難病のある子ども、健全育成			【予習・復習】授業範囲のテキストを読む		30分	
⑪子ども家庭にかかわる福祉・保健 保育・子育て支援、ひとり親家庭			【予習・復習】授業範囲のテキストを読む		30分	
⑫子ども家庭にかかわる福祉・保健 社会的養護、非行児童、情緒障害児童			【予習・復習】授業範囲のテキストを読む		60分	
⑬子ども家庭にかかわる福祉・保健 児童虐待対策、女性福祉			【予習・復習】授業範囲のテキストを読む		60分	
⑭子ども家庭福祉援助活動 相談援助活動、施設ケア、ネットワーク(地域)			【予習・復習】授業範囲のテキストを読む		60分	
⑮まとめ と 振り返り			【予習・復習】授業範囲のテキストを読む		60分	
使用テキスト: 新・社会福祉士養成講座 15 「児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度」第7版(中央法規)			その他参考文献など: 自分なりに福祉施設等での実践経験を基にまとめたものを、レジメとして最初にお渡ししたいと思います。			
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 学んだことでも、対人的な具体的実践の中では、どうしてよいか分からず途方に暮れるということもある。将来、現場に出た際に、できるだけ不要な失敗を避け、より適切な取捨選択ができるよう手助けになればありがたい。とにかく、気軽に質問していただき、納得いくまで対話できたら嬉しい。						

社会福祉学科			介護福祉 専攻			
科目名: 介護の基本IV			担当教員 氏名: 境 美代子			
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次	後期	専門科目	講義	必修	介護福祉士国家試験受験資格(必修) 社会福祉主事任用資格
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 施設管理者の経験からリスクマネジメントおよび介護の視点についての理解を促します。						
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
介護における安全確保や事故防止の安全対策を学習する。さらに、保健医療に関する基礎知識について理解するとともに、介護従事者の心身の健康管理を学び、生活者としてよりよく生きる介護福祉士を目指す科目である。					安全確保 リスクマネジメント 健康管理 感染管理 専門職業人としての介護福祉士	
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 4. 6. 9. 10	
B	専門的技術		危機的介護場面に遭遇しても、その状況に応じた心身ケアが提供できる支援方法を習得する。			
D	問題解決力		利用者の安全な生活を確保するために、将来の危険予測ができるリスクマネジメント能力を養う。			
E	自己管理能力		感染管理に関しては、利用者への感染源にならないように、自らを律して健康管理ができる「私」を宣言する。			
F	チームワーク・リーダーシップ		医療職等の他職種との役割を理解し、チームの一員として、介護に関わる専門性を発揮しながらチームケアのあり方を修得する。			
G	倫理観		人権擁護の視点に立った専門職としての介護福祉士を目指し、福祉社会に生きる「私」になる。			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 50 %		レポート: 20 %		発表: 20 %		実技試験: %
						その他: 10 %
特記事項: その他の10%は、授業態度、参加姿勢を評価します。テーマに関し意見交換を持ち、自身の介護観を形成します。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 各担当者の最終授業において評価のための試験やレポート課題を明示します。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 採点し返却します。						
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)		
				学習内容	学習に必要な時間(分)	
①介護における安全の確保とリスクマネジメント				テキスト第1章1～3節を読んでくる	【予習】30分 【復習】30分	
②安全対策 ヒヤリハット報告の重要性				テキスト第1章4節を読んでくる	【予習】30分 【復習】30分	
③介護現場における事故(1) KYT				テキスト第1章1～3節を読んでくる	【予習】30分 【復習】30分	
④介護現場における事故(2)KYT演習				配布資料のリスク因子を考えてくる	【予習】30分 【復習】30分	
⑤KYTグループ発表				グループにてプレゼン資料を作成	【予習】30分 【復習】30分	
⑥倫理の必要性和倫理的問題の理解				配布資料をよく読んでくる	【予習】30分 【復習】30分	
⑦倫理問題事例分析				自分の体験からの事例を整理してくる	【予習】30分 【復習】30分	
⑧感染防止対策(高齢者施設におけるお感染防止対策)				テキスト第3節を読む	【予習】30分 【復習】30分	
⑨高齢者施設での感染症発生時の対応(アウトブレイク対応)				配布プリントを読む	【予習】30分 【復習】30分	
⑩協働する多職種の機能と役割				テキストp140～p166を読む	【予習】30分 【復習】30分	
⑪保健・医療・福祉職の役割と機能				テキストp167～p199を読む	【予習】30分 【復習】30分	
⑫労働環境の整備①				テキスト第5章1節を読んでくる	【予習】30分 【復習】30分	
⑬労働環境の整備②				テキスト第5章2節を読んでくる	【予習】30分 【復習】30分	
⑭心の健康・ストレスについて				配布プリントを読む	【予習】30分 【復習】30分	
⑮まとめとテスト				配布プリントを読む	【予習】30分 【復習】30分	
使用テキスト: 最新介護福祉士養成講座『介護の基本Ⅱ』 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版 ISBN978-4-8058-5764-9				その他参考文献など: 介護事故とリスクマネジメント あけび書房		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 適宜資料を配布しますので、各自で整理・保管してください。						

社会福祉学科

介護福祉 専攻

科目名: 生活支援技術Ⅳ				担当教員 氏名: 毛利 亘		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	2年次	後期	専門科目	演習	選択	介護福祉士国家試験受験資格(必修)
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 介護従事者の経験から障害の特性に応じた技術の留意点について授業を行います。						
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
介護を必要とする利用者は、さまざまな状態・状況にある人々であるということを十分理解し、その要因となる障害や疾患の知識及び生活支援技術を演習を通して学びます。						視覚障害 聴覚・言語障害 運動機能障害・肢体不自由
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 3. 4. 5. 6.	
A 知識・理解力			障害の理解をすることにより必要な介護を組み立てることができる。			
B 専門的技術			心身の状況に応じた生活支援技術を理解し、実践に結びつけるための根拠を考慮することができる。			
G 倫理観			プライバシーへの配慮、尊厳遵守への配慮ができる価値観を習得する。			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 50 %	レポート: 30 %	発表: %	実技試験: %	その他: 20 %		
特記事項: グループワークにより多様な価値観を理解し、個別ケアの視点における生活支援技術を考えます。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 14回にテストを行います。レポートに関しては授業の中で示します。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: コメント、評価を記入した者を返却します。						
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)		
				学習内容	学習に必要な時間(分)	
①状態・状況に応じた生活支援技術とは				テキスト第1章を読む・授業内容復習	【予習】30分 【復習】30分	
②状態・状況に応じた生活支援技術とは 運動機能障害・肢体不自由				テキスト第2章1節を読む	【予習】30分 【復習】30分	
③状態・状況に応じた生活支援技術とは 運動機能障害に応じた福祉用具グループワーク				実習時の困難事例をまとめる	【予習】30分 【復習】30分	
④視覚障害のある人の事故防止				テキスト第2章2節を読む	【予習】30分 【復習】30分	
⑤視覚障害のある人への介護の留意点				授業内容復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑥視覚障害のある人の理解・社会モデルから考える支援				授業内容復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑦災害時における視覚障害者の生活支援				配布プリントを学習する	【予習】30分 【復習】30分	
⑧知的障害のある人の活動や参加				配布プリントを読む・授業内容復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑨視覚障害のある人への生活支援				配布プリントを読む・授業内容復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑩言語障害の理解				配布プリントを読む・授業内容復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑪言語障害に応じた介護				配布プリントを読む	【予習】30分 【復習】30分	
⑫健常者が抱く障害者のイメージから考える支援				グループワークの意見をまとめる	【予習】30分 【復習】30分	
⑬重複障害のある人への生活支援				映像を振り返って考えをまとめる	【予習】30分 【復習】30分	
⑭評価のためのテストとまとめ				テキストを振り返る	【予習】30分 【復習】30分	
⑮多職種連携のなかでの介護福祉士				実習時の事例をまとめる	【復習】30分	
使用テキスト: 最新介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅲ」介護福祉士養成講座編集委員会編集 中央法規出版 ISBN978-4-8058-5768-7				その他参考文献など: 「障害を持つ人たちのエンパワメント」伊藤智佳子著 一橋出版		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 意見交換は活発に行ってください。テキストをしっかりと読んでください。						

社会福祉学科			介護福祉 専攻			
科目名: 介護総合演習Ⅳ			担当教員 氏名: 宮城 和美			
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	2年次	後期	専門科目	演習	選択	介護福祉士国家試験受験資格(必修)
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 介護従事および施設管理者の経験から介護過程の展開および介護業務全般についての理解を促します。						
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
本科目は、次の①と②の目標を持つ実習Ⅱ-②に関する予習・復習指導を行い知識と技術を習得する。①とは、「利用者の介護計画を立案し、実践、評価、修正ができ、介護の根拠を理解し構築する。」また、②とは、「実習生が自ら設定する実習課題に基づき介護福祉士として必要な態度と能力を習得する」である。						介護実践のエビデンス 自己課題 評価 職業倫理
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 4. 6. 9. 10	
B 専門的技術	介護を必要とする利用者の潜在能力を引き出し、発揮させることの意義が理解できる。					
D 問題解決力	「利用者の情報を収集・分析し、利用者のニーズに応じたケアプランを実践できる」課題解決能力を習得する。					
E 自己管理能力	実習を有意義にするために、心身共に自己管理できる「私」の宣言書を作成する。					
F チームワーク・リーダーシップ	他職種協働の意義を理解して、チームケアのあり方を学ぶ。					
G 倫理観	尊厳を支えるケアが実践できる介護福祉士として社会福祉に生きる「私」になる。					
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: %	レポート: 50 %	発表: %	実技試験: %	その他: 50 %		
特記事項: その他50%とは、授業への取り組み姿勢の評価と実習ファイルに関する評価です。アクティブラーニングを基本とし、グループワークを行います。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> <u>プレゼンテーション</u> 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 実習前後に巡回ごとに報告会を行うのでその際にレポートを提出します。実習終了後は報告書の作成をし発表会を行います。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: コメントを入れて返却します。						
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)		
				学習内容	学習に必要な時間(分)	
①実習Ⅱ-②の目的の理解と実習のオリエンテーション				予習: 実習要綱を読んでもくる。 復習: 授業の復習	【予習】30分 【復習】30分	
②記録について(実施・評価の記録方法)				予習: 実習要綱を読んでもくる。 復習: 授業の復習	【予習】30分 【復習】30分	
③介護過程について				予習: 実習要綱を読んでもくる。 復習: 授業の復習	【予習】30分 【復習】30分	
④記録物の確認				予習: テキストを読んでもくる。 復習: 授業の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑤【特別講義】				予習: 施設の概要を調べる。 復習: 授業の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑥事前報告会				予習: テキストを読んでもくる。 復習: 授業の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑦事後報告会				記録の整理	【予習】30分 【復習】30分	
⑧生活支援技術の振り返り				記録の整理	【予習】30分 【復習】30分	
⑨介護過程の記録の修正				記録の整理	【予習】30分 【復習】30分	
⑩介護過程の記録の修正と再評価				記録の整理	【予習】30分 【復習】30分	
⑪実習報告書の作成に向けて				記録の整理	【予習】30分 【復習】30分	
⑫実習報告書の作成と実習の振り返り				記録の整理	【予習】30分 【復習】30分	
⑬実習報告会①介護実践のエビデンスの明確化				報告集を読む	【予習】30分 【復習】30分	
⑭実習報告会②介護実践のエビデンスの明確化				報告集を読む	【予習】30分 【復習】30分	
⑮実習報告会③介護実践のエビデンスの明確化				報告集を読む	【復習】30分	
使用テキスト: ①最新介護福祉士養成講座『介護総合演習・介護実習』中央法規 ISBN978-4-8058-5770-0 ②介護実習要綱				その他参考文献など: 授業の中で適宜紹介をする。		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 実習Ⅱ-②の指導科目です。記録類の保管に留意してください。						

社会福祉学科			介護福祉 専攻						
科目名: 介護実習Ⅱ-②			担当教員 氏名: 宮城 和美						
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
3	2年次	後期	専門科目	実習	選択	介護福祉士国家試験受験資格(必修)			
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 専任教員が巡回指導します。									
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード				
本科目は、アクティブラーニングを基本とする。利用者の介護計画を立案し、根拠のある実践、評価、修正できることを目標とする。また、実習生自ら設定する課題に基づいて、介護福祉士として必要な能力を習得する最後の実習である。					介護過程の実践 自己課題 多職種連携の実践 職業倫理				
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 3. 6. 9. 10				
B 専門的技術			利用者の個別ニーズに応じた生活支援技術の応用ができる能力を習得する。						
D 問題解決力			「利用者の情報を収集・分析し、利用者のニーズに応じた介護過程を展開し、計画に基づいた実践を行い評価できる。課題解決能力を習得する。						
E 自己管理能力			実習を有意義にするために、心身共に自己管理ができる「私」をつくる。						
F チームワーク・リーダーシップ			他職種協働の意義を理解し、チームの一員として生活支援が遂行できる。						
G 倫理観			専門職としての職業倫理について考え、介護福祉に生きる「私」になる。						
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	%	発表:	%	実技試験:	%	その他:	100 %
特記事項: 実習施設において指導者のアドバイスを受けながら、計画的に介護過程の展開を行います。その際は同じ介護職及び他職種に積極的にアプローチし情報収集を行います。									
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習 フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: その他100%とは、実習指導者評価と本学教員がそれぞれ行う評価にて決定することをいいます。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 個別面談形式で評価を伝達します。									
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)						
			学習内容		学習に必要な時間(分)				
①	日々の記録や経験録や		記録1時間						
②	介護過程の展開記録の活用								
③									
④									
⑤									
⑥									
⑦	「介護実習要綱」参照								
⑧									
⑨									
⑩									
⑪									
⑫									
⑬									
⑭									
⑮									
使用テキスト: ①最新介護福祉士養成講座『介護総合演習・介護実習』 介護福祉士養成講座編集委員会編集 中央法規出版 ISBN978-4-8058-5770-0 ②『介護実習要綱』			その他参考文献など: 『ICF国際生活機能分類』						
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 実習Ⅱ-②は最後の実習になります。今までの実習を振り返り、実践のやり残しが無いよう計画的に実習に取り組みましょう。									